

地域の鉄道交通を支えた橋りょう

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第052号
名称(型式等)	<small>えのきどしんてん</small> 榎戸新田橋りょう
所在地	千葉県八街市榎戸
竣工年	明治30(1897)年

選定理由

千葉県内に初めて鉄道が通ったのは、民営鉄道として開業した総武鉄道が市川～佐倉間の運行を開始した明治27(1894)年7月のことです。総武鉄道は、同年12月には本所(現在の錦糸町)まで、明治30(1897)年5月には成東まで延伸し、明治37(1904)年、両国橋～銚子間を結ぶ路線となりました。

榎戸新田橋りょうは、佐倉～成東間の開通に伴って建造されたレンガ造りのアーチ橋です。現在でもほぼ当時の姿を保ったまま JR 東日本総武本線榎戸～八街間の高崎川支流・勝田川をまたぐ橋りょうとして、その役目を果たしています。

橋のアーチ環は半円形の4枚巻(4段重ね)で、上部は焼過レンガを使っています。腰部と側壁は一般の赤レンガで、長手のみの層と小口のみの層が交互に積み重ねられています。これは、「イギリス積み」と呼ばれ、強度に優れているといわれています。また、両脇の翼壁には切石が使われていますが、石を斜めに積む「谷積み」が採用されています。

なお当初、水底には割石が敷き詰められていたようですが、現在は河川の護岸工事とともにコンクリートで補強されています。

榎戸新田橋りょうは、千葉県内最初期のレンガ造りアーチ橋であり、100年以上にわたり地域の鉄道交通を支えてきました。平成28(2016)年には、公益財団法人土木学会の選奨土木遺産に認定されています。



協力)

- ・ JR 東日本千葉支社
- ・ 八街市教育委員会

参考文献)

- ・ 土木学会ホームページ
- ・ 国立科学博物館研究報告(理工学) 1996
- ・ 「千葉県の産業・交通遺跡」 千葉県教育委員会 1998

榎戸新田橋りょう(外観)